令和8年度

災害拠点病院
医療救護要員研修

2026.10.25

SUN 9:50–16:15

西大寺緑花公園
百花プラザ

岡山県DPAT活動報告

活動チーム

岡山県DPAT

牧野ロジ(PSW)／村尾ロジ(OT) ／伊庭Ns



初めてDrを含まない構成でのチーム派遣
全国のDPATチームの中でも岡山のみ
※インストラクター派遣は除く

活動期間

8/2(日)
8:15出発
16:00到着

8/3(月)～8/6(木)

8/7(金)
13:00撤収
翌1:00帰着





活動場所

8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7
1	2	3	4	5	6
熊本県DPAT 調整本部 （熊本県庁内）	県南DPAT活動拠点本部 （熊本労災病院内） ↓ 八代地域保健医療福祉 DPAT活動拠点本部 （八代総合庁舎内）	八代地域保健医療福祉 DPAT活動拠点本部 （八代総合庁舎内）			

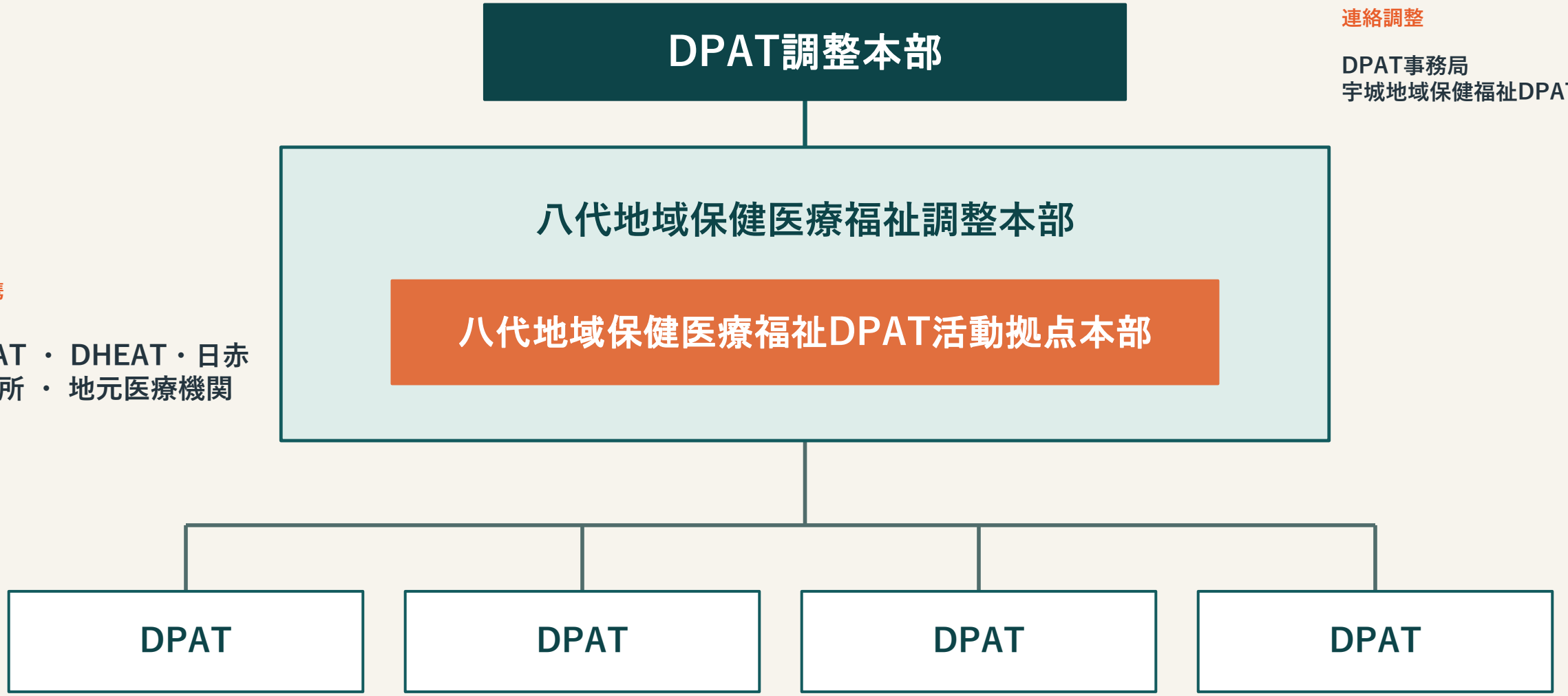








CSCA（指揮連携系統）


DPAT調整本部
連絡調整
DPAT事務局
宇城地域保健福祉DPAT指揮所
八代地域保健医療福祉調整本部
八代地域保健医療福祉DPAT活動拠点本部
横連携
DMAT ・ DHEAT・日赤
保健所 ・ 地元医療機関
DPAT
DPAT
DPAT
DPAT

活動内容

8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7
1	2	3	4	5	6
情報収集	活動拠点本部の移転	ニーズの把握	ニーズの把握と整理	支援の方向性を調整	地元への引継ぎ準備

1日のスケジュール

時刻	活動内容
5:45	宿泊地より出発
7:30	活動拠点本部到着
8:00	活動開始、全体ミーティング
8:30	DPAT活動拠点本部内ミーティング
9:00	ブリーフィング
13:30	八代地域保健医療福祉合同ミーティング
16:00	DPAT調整本部・活動拠点本部合同ミーティング
17:30	DPAT活動拠点本部内ミーティング
18:30	活動終了
20:00	宿泊地到着
21:30	日報作成、振り返り
23:30	活動終了

課題・反省点



01	**指揮と連携**	本部間でのコミュニケーションに齟齬が生じていた。横の連携についても、改善すべき点も多い。
02	**活動場所の確保**	本部活動のスペースが狭く、ミーティングなど限られた人数で実施し非効率な点があった。
03	**情報の更新**	避難所の情報が錯綜し、古い情報や重複した情報があることで現場での混乱が生じた。
04	**需要と供給**	フェーズが移り変わる段階で、日によって相談件数や依頼先が変化する中で、DPAT隊の差配に苦慮した。

本部運営について、機能班ではなくこれまで同様リエゾンの立ち位置での活動であった。

後方支援の体制

FIELD

派遣DPAT

情報

院長をはじめとした病院幹部

現場活動の日報を報告し、今後の動きや方針についてアドバイス

資源

資器材、現金、活動基地の確保

活動に必要な資機材について、不足は購入可。宿泊地は安心して休息できる環境の確保を最優先してよし。

継続

心理的安全性

日々の病院職員や幹部からの労いの言葉

後方支援の成果

疲弊する日々ではあるが、病院職員とのつながりを感じ、安心して活動することができた。

活動で得た気づき

01

本部運営の在り方

DMATをはじめ、他支援機関と合同で本部運営を行う場合、機能班を理解して活動できるDPAT隊員が不足。

02

情報の取り扱い

災害ごとに、情報の取り扱いがクラウド運用などオンライン前提の運用になっており、それらへの準備性が不足。

03

病院だけでなく診療所や施設への支援

病床を持つ精神科病院への支援が前提となっているが、診療所や施設への支援の在り方について未検討。

04

平時の準備性

他支援機関との活動が前提となっている今、普段からの関係性がさらに重要となっている。訓練内容の工夫。

困りごと

起きたこと

DPAT隊の中でのいざこざ

現場への影響

隊員間での関係性の悪化、隊の差配の目的が曖昧となり混乱を招く。



活動前後での心境の変化

普段の関係性がとても重要であることを再確認。
支援機関がどれだけ協力して活動できるかが、被災地への負担の軽減にもつながる。
岡山県の関係性であれば、それほど苦労することはないかもしれない。
しかし、全国的にはまだまだDPATが小さく固まってしまい孤立するのが現状。
今後の訓練では、できるだけ合同でシナリオを作成するなど、訓練をより実際に近づける工夫と検討が必要になるのではないか。

